

令和4年度

教職課程

自己点検評価報告書

東北文教大学短期大学部

令和5年3月

東北文教大学 教職課程認定学部・学科一覧

短期大学部（子ども学科）

全体評価

東北文教大学短期大学部は、昭和 41 年に山形女子短期大学として国文科を設置し創設され、翌年の昭和 42 年に幼児教育科が設置された。昭和 62 年には英文科が設置され、平成 13 年には男女共学化に伴い山形短期大学と名称を変更し人間福祉学科が設置された。平成 17 年には、国文科と英文科を統合し総合文化学科とし、幼児教育科が子ども学科に名称変更された。平成 22 年には、四年制大学である東北文教大学が開学されたことに伴い、東北文教大学短期大学部に校名変更された。

「教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」（基準領域 1）では、子ども学科は幼稚園教諭の養成を目的とする学科であり、すべての授業科目が教職課程と関連していることを教職員は共通理解しており、各担当科目の教職課程上の位置づけをシラバスに明記し授業に取り組んでいる。また、教職課程の質保証のため、「教職課程委員会」をはじめ、「幼保介護実習センター」、「学修支援センター」を設置して、情報交換しながら協働して学生の支援にあたっている。

「学生の確保・育成・キャリア支援」（基準領域 2）では、少子化のなか入学者は定員の 8 割から 9 割が現状である。入学時には、ほぼ全員が幼稚園教諭二種免許状の取得を目指している。学科、教員は、学生一人一人に寄り添ったきめ細かな指導を行い、豊かな人間性と社会性と保育・教育における総合的実践力を身に付けた保育者の育成に努めている。また、「進路支援センター」と子ども学科教員が連携して、体系的で個別的なキャリア支援を行っている。令和 3 年度卒業生の子ども学科全体の就職率は 100%で、このうち保育・教育専門職に就いた学生は 91.6%である。

「適切な教職課程カリキュラム」（基準領域 3）では、学科の教育目的と今日的教育ニーズを踏まえてカリキュラムを編成している。また、ディプロマ・ポリシーに基づいて「カリキュラムマップ」を作成し、各授業科目の教育課程上の位置づけを可視化するとともに、全授業科目をディプロマ・ポリシーに関わる資質・能力と対応させて GPA を基にレーダーチャート化した「学修到達度シート」を作成して、質保証をはかっている。実践的指導能力育成のために、「実習園・施設との連絡協議会」を設置して実習の充実をはかるとともに、保育・教育の現場におけるインターンシップを推奨している。

以上のように、本学部の教職課程は全体的にみて、全国私立大学教職課程協会「教職課程自己点検評価基準」をみたしていると評価できる。今後、基準領域ごとに示した〔取り組み上の課題〕の改善に努め、教職課程の一層の充実を図っていく必要がある。

東北文教大学短期大学部

学部長 佐藤 晃

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	2
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	2
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	6
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	9
III	総合評価	12
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	13
V	現況基礎データ一覧	14

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：東北文教大学短期大学部
- (2) 所在地：山形県山形市片谷地 515 番地
- (3) 学生数及び教員数

(令和4年5月1日現在)

学生数： 教職課程履修 100 名／学部全体 160 名

教員数： 教職課程科目担当（教職・教科とも）11 名／学部全体 21 名

2 特色

本学部は、子ども学科が幼稚園教諭二種免許状の課程認定を受け、大きく以下4点の特色ある教育・運営を行っている。

1つ目は、幼稚園教諭二種免許状と併せて保育士資格を取得可能とする体系的な“実習を核とした総合的カリキュラム”を構成している。履修モデルを設定していることに加えて、個別面談等の丁寧な指導を含めた計画的な進路支援に取り組んでいるため、保育職への就職率は高い水準を維持している。

2つ目は、教職科目の学びを深め広げる学科独自科目を選択必修科目としてカリキュラムに位置付けていることである。「遊び」についての学びの充実を図るため、領域「表現」に関し、「子どもと運動遊び」「子どもと音遊び」「子どもと造形遊び」を設置している。

3つ目は、教員・保育者に不可欠な学力保証である。1年次に「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を配置し学びの土台に配慮して、2年次に「卒表研究Ⅰ・Ⅱ」を配置し学びのまとめとしている。また、GPA 制度の運用等を含めた実習履修要件の設定により、実習や就職で現場に送り出す学生の質保証に取り組んでいる。

4つ目は、教職課程に関わる教職員の連携である。子ども学科、進路支援センター、幼保介護実習センターの密な連携により、丁寧な学生指導、教職課程の改善に学科とセンターの全教職員で取り組んでいる。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

本学科の教育目的『「敬・愛・信」の建学の精神に則り、未来をつくる子どものために、豊かな人間性と社会性を兼ね備えた保育・教育における総合的実践力を有する人材』の育成を踏まえ設定したディプロマ・ポリシー（以下、DP と表記する）とカリキュラム・ポリシー（以下、CP と表記する）に則り、本学科の教職課程教育は総合的実践的能力を有する保育者・幼児教育者の育成を目的としている。この目的は、『学生便覧「学生生活の手引き」』等に明示するとともに、教育課程に「地域社会の理解」や「保幼小接続と実践」に関わる科目群を設置し、学生が目的を実感できるようにしている。【資料 1-1-1・2】

本学科の教育課程は教職課程を基盤としており、保育士養成科目を含む授業科目はすべて教職課程に関連させて実施している。また、各授業科目の担当教員は、当該科目の教職課程における位置づけを意識し、シラバスの「科目のねらい」に教職課程の「免許法施行規則に定める科目区分等」との関連や、DP を踏まえて設定した学修成果指標（資質・能力）との紐づけを明示する等により、教職課程関係教員が教職課程の目的を共有している。

【資料 1-1-3・4・5】

学修成果の評価に関する方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、学修成果指標に対する学修の成果を学生が把握できるように、各指標の成果として GPA を算出、レーダーチャート化し、学修到達度シート（ディプロマ・サプリメント）として、学生に配布している。【資料 1-1-6・7・8】

〔長所・特色〕

本学科は昭和 42 年幼児教育科として設置以来 7976 名の卒業生を輩出しており、その殆どが幼児教育者・保育者として地域社会の保育に重責を果たしている。また今日的保育課題に対応できるように『子どもと歩む保育者になる』を目標に掲げ、子ども理解に基づいた実践力を有し、卒業後も学び続ける幼児教育者・保育者を育成している。この目標を具現化するため、資する資質・能力を DP で明示するとともに、Semester ごとに学びの段階を示し学生の学びの目標を設定し、学生が学びの目標を実感できるようにしている。【資料 1-1-9】

さらに、すべての科目の位置付けや DP を可視化した資質・能力との対応をシラバスに明示したことで、教職員と学生の双方の意識を高めている。

また、レーダーチャート化した学修到達度シートを学期当初のオリエンテーションで担任や指導教員から個別配布することで、個々の学生が学修成果を評価・検証できている。

〔取り組み上の課題〕

DPを可視化した資質・能力について、個々の学生の自己点検・評価を保証・実質化するためには、自己評価のシステムを構築する必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-1-1：東北文教大学短期大学部学則（令和4年度『学生生活の手引き』pp.67-87）
ホームページ/キャンパスライフ/学生生活支援/学生生活の手引き
<https://www.t-bunkyo.ac.jp/campuslife/arekore/>
- ・資料1-1-2：子ども学科規程（令和4年度『学生生活の手引き』pp.90-92）
資料1-1-1に同じ
- ・資料1-1-3：シラバス作成要領
- ・資料1-1-4：各授業科目のシラバス
ホームページ/東北文教大学短期大学部シラバス授業計画と履修の手引き <https://www.t-bunkyo.ac.jp/syllabus/jc/>
- ・資料1-1-5：学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）との中項目対応表
- ・資料1-1-6：学修成果の評価に関する方針（アセスメント・ポリシー）
（令和4年度『学生生活の手引き』p.96）
資料1-1-1に同じ
- ・資料1-1-7：履修規程（令和4年度『学生生活の手引き』pp.98-101）
資料1-1-1に同じ
- ・資料1-1-8：学修到達度シート
ホームページ/情報公開/修学上の情報等/学修の成果に係る評価
<http://www.t-bunkyo.jp/aboutus/disclosure/>
- ・資料1-1-9：東北文教大学大学案内 2023 2022.5 発行 pp.46-53

基準項目1-2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

教職課程の質を保証するため、運営を担う全学組織として「教職課程委員会」、幼稚園の教育実習を担う「幼保介護実習センター（専任実務家教員1名、専任職員1名）」、基礎学力の向上を担う「学修支援センター（専任実務家教員1名）」を設置している。さらに、こ

これらのセンター所属の教員は学科に所属し、学生動向を相互に情報交換する体制としている。

教員組織は、教職課程担当の専任教員11名（教授4、准教授3、講師4）の内、3名（教授1、准教授1、講師1）は実務家教員であり、実践的側面の指導や実習施設等との連携に知見を発揮している。【資料1-2-1】

施設設備に関しては、大学全体にWi-Fi環境を整備するとともに、全ての教室にメディアプレーヤーとモニターあるいはプロジェクターを備え付け、全教室や図書館、ラーニング・commons等でICT教育あるいはインターネットによる情報収集が可能になっている。教室には授業規模に応じ大中小の講義室、教科に応じた教室（音楽室、造形室、多目的ホール等）、コンピュータ演習室、ピアノ練習室がある。また、貸出用の授業用ノートパソコンやモバイル型プロジェクター、書画カメラを学務課に配備し、多様な授業内容の提供に資するようにしている。【資料1-2-2】図書館には個人ブース、グループ学修用のラーニング・commons、ブラウジングルーム、AV鑑賞ブース等を設置し、多様な教育支援に対応できるようにしている。【資料1-2-3】さらに、幼保介護実習センターを設け、実習施設との連携、調整や学生への情報発信を行うなど、実習に関する学生の窓口となり学生支援を行っている。

また、FDとSD活動を統括する教育開発センターを設け、授業評価の実施やICTの授業での活用等の研修会を通して、教職課程を含めた改善に取り組むとともに、本学のホームページの「情報公開・教員養成に関する情報」において、「教育職員免許法施行規則第22条の6」に定められた情報公表を行っている。

また、後述の作成プロセスを経てまとめられた本「教職課程自己点検評価報告書」は、ホームページに公表する。【資料1-2-4】

〔長所・特色〕

本学科は“実習を核とした総合的カリキュラム”を標榜しているので、本学科の分掌に実習プロジェクトチームを設置し、幼保介護実習センターと協働することで、実習の円滑な実施と支援体制、さらに学生の学びの充実を図っている。

コロナ禍を機に、今まで以上にFD研修会等を活発化させ、オンライン授業のスキルや工夫の共有を図っている。

〔取り組み上の課題〕

教室環境等の更なる充実を含めたハード面での整備が必要である。特に、ICT教育環境の充実は不可欠であり、合わせてソフト面、ICTを活用した効果的な授業方法について非常勤教員も含めた全ての授業担当者に対する研修など、一層の充実が必要である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-2-1 : 令和 4 年度 職務分掌
- ・資料 1-2-2 : ホームページ/キャンパスライフ/施設・設備
<https://www.t-bunkyo.ac.jp/campuslife/campus/>
- ・資料 1-2-3 : 図書館利用のしおり
- ・資料 1-2-4 : ホームページ/情報公開/教員養成に関する情報/教職課程自己点検評価
報告書 <http://www.t-bunkyo.jp/aboutus/disclosure/>

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

学生の確保・育成に向けて、育成を目指す人材像をHPで公開し、学生募集要項にも明記している。具体的には、子ども学科では、「教育の目標にかかげる豊かな人間性と社会性を兼ね備えた、保育・教育における総合的実践力を有する人材」の育成を目指し、＜求める学生像（アドミッション・ポリシー）＞として、①保育・教育職に対する目的意識、意欲、②基礎学力、思考力、表現力、③保育者に相応しい人間性、良好な人間関係を保つためのコミュニケーション能力、④社会への関心、問題意識を有していることを求めている。【資料2-1-1】

学生確保の面では、毎年、学校推薦型選抜指定推薦において、指定校、指定人数、指定評定平均値の見直しを行っている。また、2024年度入学者選抜に向けて学校推薦型選抜公募推薦を中心に、選抜方法などの整理、改善に取り組んでいる。

育成面では、学年の全学生が受講する科目は、2つ以上のクラスに分割することを基本にする等、適切な履修規模で各授業を開講している。【資料2-1-2】また、教職の全科目で履修カルテ（シラバスの達成目標に対する自己評価と、それに対する教員のコメント）を作成し、次の Semester 開始時のオリエンテーションでのファイリングを通して振り返り、保育・教職実践演習（幼稚園）において自己課題把握に活用している。【資料2-1-3・4】

〔長所・特色〕

卒業時の幼稚園教諭免許取得率は9割（2021年度卒94%、2020年度卒99%）を超え、取得した学生の殆どが幼児教育職・保育職に就いている（2021年度卒94%、2020年度卒88%）。本学科への受験時も幼児教育職・保育職を目指しており、アドミッション・ポリシーを認識した志願者が殆どである。

履修に向けての指導では、幼稚園教諭二種免許状取得と共に保育士資格取得に向けた履修を進めており、実習に向けてGPAを基にした実習可否の基準を設定している。基準に満たない学生に対しては、個別指導を行った上で、実習の可否を学科会議にて審議し可否を判断することで実習生の質保証を図っている。【資料2-1-5】

授業に関しては、適切な履修規模で丁寧な運営をしている。また、授業評価と同時に履修カルテでの自己評価を行うことは、学生が自身と向き合う良い機会となっており、加えて、教員の確認を経て返却された履修カルテを整理する機会が Semester ごとにあることは、自身の学びを適切な頻度で体系的に振り返る機会となっている。

〔取り組み上の課題〕

学生確保に関しては、過去3年間定員を確保できていない。高校生対象の事業が新型コロナウイルスの影響で十分に実施できなかったことも要因の一つと捉えているが、推薦入試（学校推薦型選抜）および総合型選抜での入学者が入学者の多くを占め、教職・保育職に就く卒業生が殆どである本学科においては、幼児教育職・保育職の魅力の発信に一層努める必要がある。高校生が志望を検討し、高校で推薦を判断する材料が評定値だけに依存することがないように、幼児教育職・保育職の魅力に加えて、求められる資質の発信も重要と認識している。総合的に高大連携教育の充実が課題である。

育成に関しては、履修カルテを主体的に活用する、振り返りを学修の起点にするよう学生に促していくことに課題がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-1-1：子ども学科規程（令和4年度『学生生活の手引き』pp.90-92）
資料1-1-1に同じ
- ・資料2-1-2：令和4年度時間割
- ・資料2-1-3：履修カルテ
- ・資料2-1-4：令和4年度シラバス「保育・教職実践演習（幼稚園）」
ホームページ/東北文教大学短期大学部シラバス授業計画と履修の手引き <https://www.t-bunkyo.ac.jp/syllabus/jc/>
- ・資料2-1-5：GPAスコアの運用要項（令和4年度『学生生活の手引き』p.102）
資料1-1-1に同じ

基準項目2-2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

キャリア支援は「進路支援センター」と学科教員が協力し、担っている。進路支援センターでは、就職率を高める体系的な取り組みとして、1年次より年間計画を作成し、自己分析や採用試験対策から入職準備までの内容の「進路ガイダンス」を毎週火曜日の5コマ目を実施している。【資料2-2-1】

保育職希望者に模擬面接を行う2年次の「保育職セミナー」では、県内の幼稚園・こども園・保育所の園長らを講師に迎える等、地域との連携を活用している。【資料2-2-2】保育職の求人等の情報に加えて、四年制大学への編入学について進路ガイダンスの一環として適宜、情報提供に努めている。

また、1・2年生ともに、4月に進路ガイダンスの時間を活用し、「担任面談」を実施する

とともに、1年生は2月、2年生は11月に進路支援センターの担当者による「個別面談」を実施し、進路希望の把握を行い、子ども学科内の教員と共有しながら指導を行っている。

〔長所・特色〕

担任及び進路支援センター担当者との定期的な個別面談等により、意欲の喚起や進路変更の相談を適切に実施し、保育職への高い就職率を維持している。幼稚園教諭二種免許状の取得率は98%であり、その85%が保育職に就職している。また、保育職就職者のうち35%が幼稚園または幼保連携型および幼稚園型認定こども園に就職している。

〔取り組み上の課題〕

計画的かつ個別の支援が実施できており、成果も伴っていることから、今後も丁寧に継続する。保育職就職者において、毎年数名の早期離職者が出ており、早期離職の予防にむけて、卒業後のケアを含めた対策を講じる必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-2-1：ホームページ/進路支援/進路別スケジュール
<https://www.t-bunkyo.ac.jp/career/support/schedule-c/>
- ・資料2-2-2：保育職セミナー要項

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

全体の編成としては「教養科目」「専門科目」「卒業研究」の3科目群で編成している。「教養科目」と「専門科目」を密接に関わらせながらカリキュラムを編成し、それらを総合的にまとめ上げる科目として「卒業研究」を配置している。また、専門科目に関してはディプロマ・ポリシーとの整合性をはかりつつ5つの区分を設定し、カリキュラム・ポリシーに示す等、系統性に留意しており、履修系統図や科目のナンバリングとして可視化している。

教職課程を含め教育課程にあるすべての科目のシラバスは体系的かつ詳細に作成し、教務委員が確認した後にHP上にて公開している。「開講年次」等の基本情報に加えて、〈基準領域1-1〉でも触れた科目のねらいや達成目標・到達目標でのディプロマ・ポリシーとの関連付け、また単位認定の要件やすべての授業会の授業計画、時間外学習の概要など必要な情報を簡潔に網羅している。また、令和3年度の教育職員免許法施行規則及び教職課程認定基準等の改正において教職課程全体を通じたICT活用指導力の育成への取り組みが重要視されていることを踏まえた情報通信技術の積極的な活用を「保育教職実践演習(幼稚園)」「各教科の指導法」等において実施している。【資料3-1-1・2】

履修に関しては、54単位のキャップ制(直近の学期におけるGPAが3.0以上の学生は除く)を採用し、多様な学びと単位の実質化の両立に努めている。また、履修済科目と一定の成績(教職課程に限らない全履修科目のGPA1.5以上)を実習履修要件として明示している。【資料3-1-3・4】

「基準項目2-1」でも触れたように、「保育・教職実践演習(幼稚園)」にて、第1回授業で履修カルテを使用した自己課題の設定を行い、第15回授業にて自己課題に対する振り返りと卒業後の自己課題の設定を行っている。その際、学修到達度シート(ディプロマ・サプリメント)も活用し、自己評価と成績評価の比較も行った上で自己課題を確認できるようにしている。

〔長所・特色〕

キャップ制の下でも、教養科目(15科目開講)等の卒業要件(必修科目3科目、選択必修科目として概ね5科目程度履修)を設定するとともに、専門科目の選択履修によるキャリア形成を勧める等、幅広い学修を促進している。【資料3-1-1・5】あわせて、進路を見据えた4つの履修モデル(卒業のみ、保育士資格取得、幼稚園教諭二種免許状取得、

保育士資格・幼稚園教諭第二種免許状取得)を設定している。なお、選択必修科目には、保育内容の理解と実践力の向上を図るために学科独自の科目「子どもと運動遊び」「子どもと音遊び」「子どもと造形遊び」を設置している。【資料3-1-5】

また、「実習を核とするカリキュラム」を標榜し、幼稚園実習を3回(1週間2回、2週間1回)、保育実習を2回(2週間2回)に分けて実施、それをはさみこむ形で実習事前事後指導を配置し、振り返りと自己課題の明確化をはかりながら実習に進むことができるようにしている。

〔取り組み上の課題〕

今日の教育課題や学生のニーズに応じてカリキュラムの見直しに取り組んできたが、より魅力的かつ効果的な科目編成を検討し続ける必要がある。保育士資格と幼稚園教諭二種免許状の両方を取得させるため、2年間で91単位の取得となり、キャップ制を超えた履修が難しく、学びを深める教職課程以外の科目に関し、必修科目の履修に止まっている。また、コロナ禍の対面・遠隔授業におけるアクティブ・ラーニングの工夫及びICTの活用を促進する必要がある。

ディプロマ・ポリシーに「総合的に保育を計画し実践することができる」としているものの、この資質・能力の育みについての評価は検討を要する。再課程認定以前には、学生の学修状況を、実習で使用した指導案をもとに分析し、分析結果を教員間で共有し、授業内容に活かしてきたが、再課程認定後については改に調査する必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-1-1：子ども学科規程(令和4年度『学生生活の手引き』pp.90-92)
資料1-1-2に同じ
- ・資料3-1-2：各授業科目のシラバス
資料1-1-4に同じ
- ・資料3-1-3：履修規程(令和4年度『学生生活の手引き』pp.98-101)
資料1-1-7に同じ
- ・資料3-1-4：GPA運用要項(令和4年度『学生生活の手引き』p.102)
資料1-1-1に同じ
- ・資料3-1-5：東北文教大学短期大学部学則(令和4年度『学生生活の手引き』pp.67-87) 資料1-1-1に同じ

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

保育実習、教育実習については、前年度に学生の実習依頼をし、実習期間前に「実習園・施設との連絡協議会」を開催している。【資料3-2-1】

保育士資格・幼稚園教諭二種免許状取得の特性に応じた実践的指導力を育成する機会として、教育実習とともに、様々な体験活動（インターンシップ、保育ボランティア）への参加を促し、体験を通して、子ども理解を深め、保育・教育現場での実践の最新事情について学生が理解を得る大切な機会としている。

〔長所・特色〕

実習園・施設との連絡協議会については、実習先として幼保連携型認定こども園が増えていることから、2022年度より、幼稚園教育実習と保育実習で協議会の開催日を分け、指導担当者との協議が深まるようにしている。

現場との連携において、隣接している本学附属幼稚園や系列園である社会福祉法人敬愛信の会との連携を密にし、学生が現場から学べる機会を有効的に設けている。

具体的には、実習開始前の1年次前期に、かほくあいこども園（認定こども園）を見学し、園の概要や環境を知ったり、子どもの姿を観察し保育の流れや保育者の仕事を学んだりする実地体験を実施している。また、ゲストスピーカーによる「保育の1日の流れ」の講話を教育実習Ⅰの授業内で実施している。【資料3-2-2】さらに、学生が子どもの姿をイメージできるように、附属幼稚園での子どもの遊びの様子を撮影した画像を教育実習Ⅰの事前指導に活用している。

〔取り組み上の課題〕

コロナ禍により実習施設との連絡協議会をオンライン開催としたことで、遠方からも参加しやすくなったが、就学前施設のICT環境の整備は十分とは言えないことから、連絡協議会の開催方法の検討が必要である。

また、コロナ禍以前には、大学祭開催時に「ほいくるこども王国」を実施し、実践的体験学習の場として地域社会との交流が行われていた。現在、当該イベントの実施が困難であるため、今後、地域社会との交流方法を検討する必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-2-1：令和4年度 実習園・施設との連絡協議会（教育実習）次第
- ・資料3-2-2：令和4年度 実地体験要項

Ⅲ. 総合評価

子ども学科の目的は保育者養成である。教育課程は、保育者の資質・能力の育成を図るために、専門科目を「保育の本質・目的」「保育の対象の理解」「保育の内容と方法」「保育展開のための知識・技術」「保育実践」という5つの専門科目群で構成している。したがって、子ども学科の所属教員は、ほぼ全教員が何らかの教職課程に関わる授業科目を担当し、また、事務局も教職課程についての意識が高く、教職課程の運営は教職員の共通理解の下、協働的に実施されている。

入学時の進路希望調査において、概ね100%の学生が保育職を希望していることより、アドミッション・ポリシーは十分に機能していると考えられる。入学後は、「幼保介護実習センター」や「進路支援センター」が中心になってキャリア支援を行っている。クラス担任制を導入しているため、担任教員が1年前期から定期的に全学生と個別面談を行い、各学生の進路目標を確認するとともに、適宜、進路についての相談に応じ、学生の適性或資質を踏まえて指導している。この面談結果については、学科の全スタッフが共有するように学科会議で報告する体制にしている。

子ども学科の教育目標は「豊かな人間性と社会性を兼ね備えた、保育・教育における総合的実践力を有する人材の育成」である。この目標を達成するために、各授業科目を先述の5つの専門科目群にグループ化し、実習を核とした総合的カリキュラムを構成している。授業と実習を関連付けながら実践力のある保育者育成を図っている。また、教職科目の学びを深め広げる学科独自科目を選択必修科目としてカリキュラムに位置付け、運動・身体表現、音楽、造形に関する科目を設置し、体系的で主体的な学びを保証している。さらには、学びのまとめとして「卒表研究Ⅰ・Ⅱ」を配置し、子どもフォーラムにて研究・実践した成果を地域に広く公開している。

以上、本学科の教職課程は、学科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーに基づいて運営され、その管理は、全学組織である「教職課程委員会」により点検・評価されている。

IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

本学は、これまで教職課程の質保証については、教務委員会、幼保介護実習センター、進路支援センター等がそれぞれの職務の中で適切に対応してきたが、軸となる部署がなかったため令和元年の再課程認定の際は学長の下にワーキンググループを設置し対応した。この反省を踏まえ、教職課程の質保証に対する体制を大学として明確にするため令和4年度に「教職課程委員会」を設置した。

本報告書の作成は、教職課程委員会に教職課程自己点検評価ワーキンググループ（WG）を設置し取り組むことにした。当該WGは、子ども学科学科長の下、子ども学科教員5名（副学科長、教務委員会委員3名、教職担当教員1名）、学務課課長、進路支援センター課長の8名で構成した。4月に、取りまとめ役としてWG副座長を決め、自己点検評価の項目や作成までのスケジュールを確認するとともに、執筆担当箇所を協議し決定した。9月末に分担執筆した点検評価報告書を副座長に集約した。執筆の期間中に、確認事項やエビデンス資料等に疑問が生じたときは、適宜、座長、副座長、執筆担当者の三者で意見を交換し、解決するようにした。分担の点検評価報告書を集約後、副座長が書式を統一し体裁を整えるとともにエビデンス資料を確認し、10月末に座長（学科長）へ提出した。学科長は内容を確認しつつ総合評価を下し、本報告書を完成させた。

学部長による全体評価を経た本報告書を、1月の学科会議で審議し、全学科教員で教職課程の実態や今後の在り方について共有した。

その後、本報告書を教職課程委員会で審議し、ついで評議委員会の審議を経てから、令和5年3月の教授会で報告し全教職員で共有した。

以上、本学の教職課程が本学科のみであり、またカリキュラムが教職課程と概ね同じであることから、本報告書の作成は円滑に進み、かつ内容については教職員に十分に認識されている。

V 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名 学校法人富澤学園					
大学・学部名 東北文教大学短期大学部					
学科 子ども学科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数					86名
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					81名
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					81名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					12名
④のうち、正規採用者数					12名
④のうち、臨時的任用者数					0名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	4名	3名	4名	0名	兼任2名 非常勤5名
相談員・支援員など専門職員数 0名					